研究報告書第36号

Ｆ８－01

中学校における学業指導の問題点と改善の視点

1986・3

山形県教育センター

（資料整理カードＦ８－01）

研究報告書第36号（昭和61年３月刊）

中学校における学業指導の問題点と改善の視点

山形県教育センター

目　　次

Ⅰ　研究の趣旨とねらい
1. 研究のねらい
2. 研究の趣旨

Ⅱ　研究の手順と調査の方法
1. 研究の手順
2. 調査の方法

Ⅲ　研究の内容―調査結果の分析と考察―
1. 生徒の学習意欲と教師の学業指導について
2. 生徒の学業上の悩みと教師の個別指導について
3. 生徒の家庭学習とその指導について
4. 生徒の教師に対する学業上の要望について

Ⅳ　研究のまとめと今後の課題
1. 研究のまとめ
(1) 生徒の学業生活の問題点
(2) 教師の学業指導上の問題点
(3) 学業指導の改善の視点
2. 今後の課題

研　究　の　概　要

1. 研究の趣旨とねらい

生徒の学習不適応からくる生活の乱れや自信喪失は，いま，生徒指導上きわめて大きな課題の一つとなっている。適切な学業指導が行われ，学習上の適応が得られたとき，生徒は毎日の学習に意欲的に取り組み充実した学校生活を送ることができるであろう。

そこで，本研究は，中学生がいまどのような学業生活を送っているのか，教師はどのような問題をかかえ，どのようにして学業指導を行っているのか，それぞれの実態を調査し，中学校における学業指導の問題点と改善の視点をとらえようとするものである。

2. 研究の手順と調査の方法

(1) 中学生の学業生活と教師の学業指導にかかわり，生徒と教師（学級担任と教科担任）を対象にした選択肢質問紙法による調査票を作成する。

(2) 調査対象校を無作為に抽出し，抽出された各学校に調査票を郵送し調査を実施する。調査対象者が無記名で記入したものを郵便で返送することにより回収する。

(3) 回収した調査票を集計し，中学生の学業生活と教師の学業指導の実態を分析する。

(4) 実態の分析を基にして，中学校における学業指導の問題点と改善の視点をとらえる。

3. 研究の内容　― 調査結果の分析と考察 ―

(1) 生徒の学業生活の問題点

学習に意欲的に取り組めない生徒や学習に興味・関心を示さない生徒が多い。学習のやり方がわからないとしている生徒が多いが，学習のことで教師に質問したり相談する生徒は少ない。みんなで協力して学習しようとする生徒が少ないようにみえる。家庭学習では計画を立てて学習している生徒は少ない。

(2) 教師の学業指導上の問題点

生徒を学習に意欲的に取り組ませることや学習しやすいような学級の雰囲気づくりについて苦慮している教師が多い。学業指導について，学級担任と教科担任の役割意識や協力が十分でないように思われる。個別指導の実施や生徒理解のための研修が思うにまかせないとしている教師が多い。

(3) 学業指導の改善の視点

学習意欲を高めるために，学習の意義や目的についてもっと指導を強めたり，協力して学習し合う場面をできるだけ多くとることが大切であろう。学級担任は学級内で生徒が学習しようとする雰囲気づくりに，教科担任は学習のしかたについての指導に，さらに努力する必要があろう。個別指導では，特に面接相談を重視して生徒理解に努める必要があろう。家庭学習では課題学習の内容や与え方に今後とも工夫していく必要があろう。

4. 今後の課題

(1) 改善の視点からみた学業指導の実態を調査し，学業指導の具体的な改善の方策をとらえる。

(2) 学業指導の指導事例や授業研究をとおして，学業指導の進め方について検討していく。

は　し　が　き

中学校教育を望ましい姿で進めるには，学校における教育課程の改善や指導方法の充実などが必要であるが，同時にその前提として，一人一人の生徒が自らの学業に目標を立て，進んで学び，生きがいをもちながら学校に適応していく過程の，適切な援助・指導が大切になってこよう。

ところが，現実としては，以前にも増して生徒の学習意欲の低下や消極的な授業態度が目立ち，教師はその対応に苦慮している実状にある。さらに，このような学習上の不適応は，生徒の生活の乱れや自信喪失につながり，いま，生徒指導上の大きな課題の一つになっている。

そこで，当教育センターでは，２か年計画で学業指導に関する研究に取り組み，その第１年次として「中学校における学業指導の問題点と改善の視点」をまとめ，発刊することとした。この研究は，中学生の学業生活と教師の学業指導の実態を調べ，中学校の学業指導の問題点と改善の視点をとらえようとしたものである。調査の内容が十分でなかったり，研究の進め方などにも不備な点が少なくないと思われるが，実践の立場からきびしく，建設的に批判くださるとともに，私どもの意のあるところをくみ取っていただいて，各学校における学業指導の資料として活用していただければ幸いである。

最後に，この調査にご協力いただいた各学校の先生方や生徒のみなさんに，心からお礼を申し上げる次第である。

昭和61年３月

山形県教育センター
所長事務取扱　鈴　木　栄　三

目　　次

Ⅰ　研究の趣旨とねらい …… 1

1.　研究のねらい …… 1

2.　研究の趣旨 …… 1

Ⅱ　研究の手順と調査の方法 …… 2

1.　研究の手順 …… 2

2.　調査の方法 …… 2

Ⅲ　研究の内容　―調査結果の分析と考察―　…… 4

1.　生徒の学習意欲と教師の学業指導について …… 4

2.　生徒の学業上の悩みと教師の個別指導について …… 11

3.　生徒の家庭学習とその指導について …… 19

4.　生徒の教師に対する学業上の要望について …… 25

Ⅳ　研究のまとめと今後の課題 …… 27

1.　研究のまとめ …… 27

(1)　生徒の学業生活の問題点 …… 27

(2)　教師の学業指導上の問題点 …… 27

(3)　学業指導の改善の視点 …… 27

2.　今後の課題 …… 29

研 究 担 当 者

指導主事	梅 本 英 夫
指導主事	永 田 克 彦
指導主事	高 橋 信 敬
指導主事	佐 竹 清 一
指導主事	吉 江 い ち

I　研究の趣旨とねらい

1. 研究のねらい

中学校における生徒の学業生活と教師の学業指導の実態を調査し，中学校における学業指導の問題点と改善の視点をとらえる。

2. 研究の趣旨

生徒はだれしもが勉強ができるようになりたいとねがっているが，何らかの障害でざ折すると学習への興味を失い，学業不振に陥る場合が多い。学習不適応からくる生徒の生活の乱れや自信喪失は，いま，生徒指導上きわめて大きな課題の一つとなっている。

適切な学業指導が行われ，学習上の適応が得られたとき，生徒は，毎日の学習に意欲的に取り組み，充実した学校生活を送ることができるであろう。

学業指導の意義は，学校における教育活動の全体において，一人一人の生徒が意欲的に学習に取り組み，自らの学業生活の改善と向上を図るよう援助・指導することにある。したがって，学業指導は多岐にわたる生徒指導の中にあってきわめて重要な部面を占めているものであるといえよう。

学業指導の内容としては，学習意欲の向上や学習習慣・学習態度の形成に関する指導，学習上の困難点の解消や学習計画の立て方と実施に関する指導などが考えられる。さらに，学習をより効果的に進めるためには，学級の生徒同士や教師と生徒との人間関係及び学業にかかわる望ましい環境づくりにも目を向けていく必要があろう。

これまでの学業指導は、主に学業不振の生徒を対象にして行われてきたきらいがあった。しかし，これからは，授業についていけない生徒に対する指導にとどまらず，すべての生徒を対象とし，一層の意欲的な学習態度や豊かな創造性を育成しようとする積極的な指導に力点を置くことが大切になってくるのではないだろうか。

ところで，これまで実施してきた生徒指導に関する研究からみても，本県の中学校における学業指導は，必ずしも十分に行われてきたとは言いがたい。生徒個人の学習上の悩みや学級の一人一人が協力して学習していこうとする学級の雰囲気づくりに関する指導，教師間の共通理解や連携・協力，個別指導の実施などの面においても，教師はいろいろ苦慮しており，学業指導における問題の深刻さをうかがうことができる。

そこで，本研究は，中学生がいまどのような学業生活を送っているのか。教師はどのような問題をかかえ，どのようにして学業指導を行っているのか。それぞれの実態を調査し，中学校における学業指導の問題点と改善の視点をとらえようとするものである。

Ⅱ　研究の手順と調査の方法

1. 研究の手順

(1) 中学生の学業生活と教師の学業指導の実態をとらえるため，生徒と教師（学級担任と教科担任）を対象とした選択肢質問紙法による調査票を作成する。

(2) 調査対象校を無作為に抽出する。

(3) 各対象校に調査票を郵送し，調査を実施する。

(4) 回収した調査票を集計し，中学生の学業生活と教師の学業指導の実態を分析する。

(5) 実態の分析を基にして，中学校における学業指導の問題点と改善の視点をとらえる。

2. 調査の方法

(1) 調査対象校の抽出

県内の公立中学校から地域，学校規模を考慮して45校を無作為に抽出した。この学校数は本県公立中学校の約31％にあたる。

抽出された学校の各学年の任意の１学級の生徒全員及びその学校の教員（教諭，助教諭，講師）全員を調査の対象とした。

(2) 調査の項目

調査の項目はおおむね次のとおりである。

生徒対象

① 学習の目的，意欲，態度，能力に関すること

② 学習上の不安や悩みと教師との個別相談に関すること

③ 学級での生活に関すること

④ 家庭学習の計画とその実施状況に関すること

⑤ 学習について学級担任や教科担任に対する要望に関すること

教師対象（学級担任用と教科担任用）

① 学業指導の計画とその実施状況に関すること

② 学業指導の重点指導内容に関すること

③ 生徒の学業生活に対する個別指導に関すること

④ 学業指導について学級担任と教科担任の連携・協力に関すること

⑤ 生徒同士や教師と生徒との人間関係に関すること

⑥ 家庭学習の習慣形成などに関すること

ただし，教師対象の①については教科担任用から除く。

(3) 調査の方法

選択肢質問紙法による調査票を各対象校に郵送し，調査対象者が無記名で記入したものを，郵便で返送することにより回収した。

(4) 調査の期間

昭和60年10月21日～11月20日

(5) 調査対象の人数，調査票の回収実数及び回収率

対象者＼項目		調査対象人数	回収実数	回収率
生徒		4,227人（ 8.1％）	4,133人（ 7.9％）	97.8％
教師	学級担任	431人（29.8％）	408人（28.2％）	94.7％
	教科担任	291人（32.4％）	276人（30.8％）	94.8％

調査対象の学校数は45校で，すべての学校より回答があった。

表中の（　）内の数字は当該対象者の県の全数に対する百分率である。

Ⅱ　研　究　の　内　容

― 調査結果の分析と考察 ―

ここでは，調査の結果をもとに，1.生徒の学習意欲と教師の学業指導，2.生徒の学業上の悩みと教師の個別指導，3.生徒の家庭学習とその指導，4.生徒の教師に対する学業上の要望の四つの観点から，中学校における学業指導の問題点と改善の視点がどこにあるかを分析し，考察する。

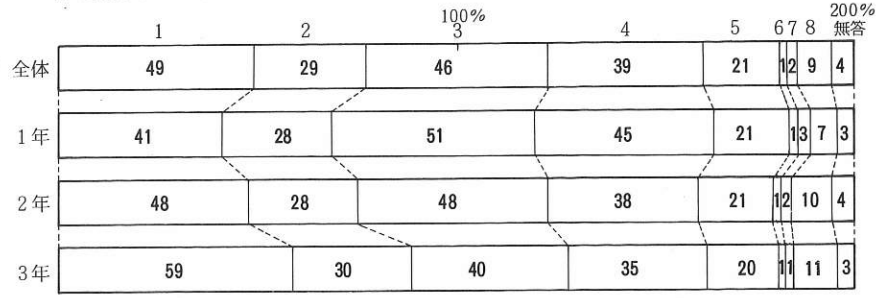
1. 生徒の学習意欲と教師の学業指導について

生　徒　側

学習の目的をどうとらえているか

質問　あなたは，何のために学校の勉強をしておりますか。二つまで選んでください。

1. 高校に合格するために
2. 知識や技術を得るために
3. 将来の職業に役立てるために
4. これから生きていくのに役立てるために
5. 自分の成績を上げるために
6. 親や先生からもっとほめられたいために
7. 勉強することが楽しいから
8. 特にない



(注)　選択肢を二つ選ぶ質問の場合には，選択肢の合計を200％にした。このことについては以下同じである。

生徒は，学習の目的をどうとらえているのだろうか。全体として「高校に合格するために」が最も多く，ついで「将来の職業に役立てるために」や「これから生きていくのに役立てるために」が多い。学年が進むにつれて，「高校に合格するために」が多くなり，「将来の職業に役立てるために」や「これから生きていくのに役立てるために」は，ともに，少しずつ少なくなる。高等学校入学者選抜学力検査が目前に迫ってくる３年生にとっては，「高校に合格するために」が勉強することの当面の目的となることは当然の結果としてうなずける。しかし，１年生のときには，「高校に合格するために」以上に，「将来の職業に役立てるために」や「これから生きていくのに役立てるために」勉強をしているとする生徒が多い。

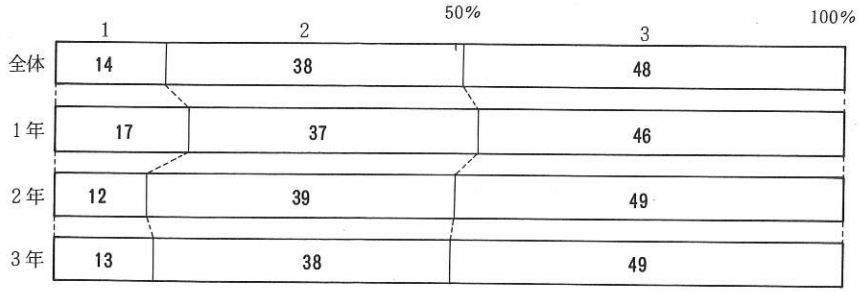
したがって，生徒の「将来の職業に」や「これから生きていくのに」役立てたいという考えを大切にし，一人一人の生徒にその適性を探らせながら，勉強することの目的や意義をなお一層考えさせること

が必要となるだろう。また，それに見合った指導を加えていくことも必要ではないだろうか。学習の目的意識をしっかり身につけさせていくことは，生徒の学習に対する意欲にも深くかかわっていくように思われる。

意欲的に学習に取り組んでいるか

質問　あなたは，学校で〝やる気〟を出して勉強することが多い方ですか。一つ選んでください。

1. 多い方である
2. 少ない方である
3. どちらでもない



生徒は，毎日の授業の中で，意欲的に学習に取り組んでいるだろうか。〝やる気〟を出して勉強することが「多い方である」とこたえた生徒は全体としては14％，「少ない方である」とこたえた生徒は38％である。１年生は，２，３年生に比べて，〝やる気〟を出して勉強することが多い方であるとこたえた生徒が，やや多い。

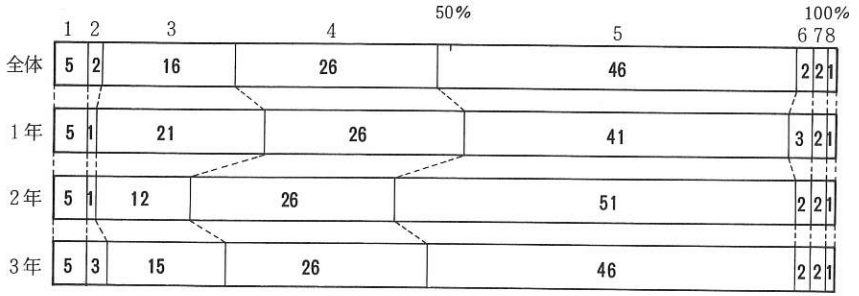
また，〝勉強のことでいま困っていることは，どんなこと〟という質問（11ページ参照）に対して，全体として36％の生徒が「勉強をやろうとする気持ちが出てこない」，27％の生徒が「勉強以外のことで気がちってしまう」とこたえており，意欲的に学習に取り組めない生徒は，かなり多いことがわかる。

こうした状態が続いていけば，勉強がわからないとか学校がおもしろくないといったことにつながっていくことも心配される。なぜ，生徒は〝やる気〟を出して学習に取り組めないのだろうか。

意欲的に学習に取り組めない理由はなにか

質問　前の質問で，２を選んだ人だけこたえてください。それはどうしてですか。一つ選んでください。

1. やっても勉強ができるようになるとは思われないから
2. 勉強しても将来のために役に立つとは思われないから
3. まわりの人がふまじめで勉強するふんいきでないから
4. 勉強している内容がむずかしいから
5. 勉強している内容に興味や関心が起きないから
6. 友だちや先輩のことが気にかかるから
7. 自分のからだや性格のことが気にかかるから
8. 家族や家庭のことが心配になるから



生徒が〝やる気〟を出して勉強に取り組めないのはどんな理由からだろうか。全体として「勉強している内容に興味や関心が起きないから」が最も多く，ほぼ半数を占め，特に２年生に多い。ついで，「勉強している内容がむずかしいから」が多く，各学年とも26％を占める。また，「まわりの人がふまじめで勉強するふんいきでないから」が全体として16％を占めるが，１年生が２，３年生に比べてより多い。

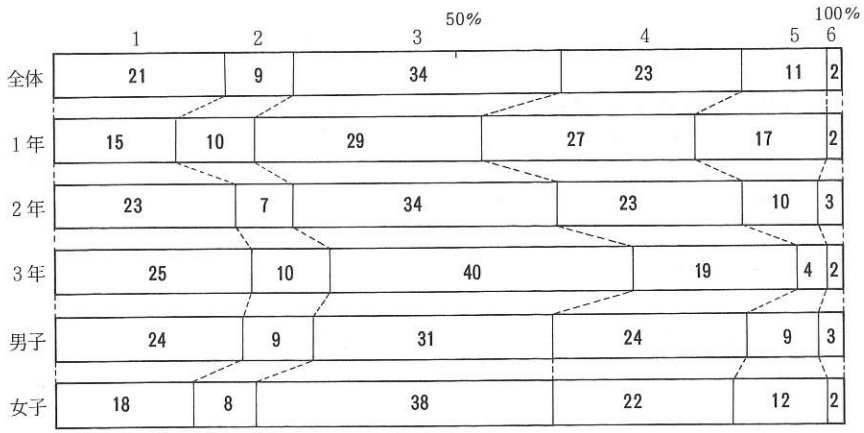
「勉強している内容に興味や関心が起きないから」は，「勉強している内容がむずかしい」などとも合せて，授業における指導の方法や学習内容の提示のしかたと深くかかわっているのではないだろうか。授業の中で，どのようにすれば勉強している内容に興味や関心を持たせることができるのか，また，どのようにすれば一人一人の生徒がわかるようになるのか，今後とも検討を加え，工夫していかなければならないことであろう。

また，「まわりの人がふまじめで勉強するふんいきでないから」は，１年生により多く見られるが，まじめに勉強しようという気持ちが強いからだろうか。それとも，学級のまとまりに若干欠けるきらいがあるのだろうか。そうだとすれば，学級担任は教科担任と協力しながら，きめ細かく根気強く指導にあたっていくことが必要になってこよう。

授業中，わからないことがあったとき，どうしているのか

質問　あなたは，授業でわからないことがあったとき，どのようにすることが多いですか。一つ選んでください。

1. そのままにしておく
2. 授業中や放課後などに先生に質問する
3. 授業中や放課後などに友だちに教えてもらう
4. 家に帰ってから，もう一度自分で勉強し直す
5. 家に帰ってから，家族の人に教えてもらう
6. 家に帰ってから，塾の先生や家庭教師に教えてもらう



生徒は，授業でわからないことがあったとき，どのようにすることが多いだろうか。全体として79％の生徒は，授業でわからないことがあったとき，何らかの形でわかろうと努力していることがうかがえる。その中では，「授業中や放課後などに友だちに教えてもらう」が最も多く，全体として34％を占める。ついで，「家に帰ってから，もう一度自分で勉強し直す」や「家に帰ってから，家族の人に教えてもらう」などをあげている。「授業中や放課後などに先生に質問する」は９％である。一方，21％の生徒が「そのままにしておく」とこたえている。また，男子は，女子に比べて，「そのままにしておく」はより多い。

学年が進むにつれて，家に帰ってから「もう一度自分で勉強し直す」や「家族の人に教えてもらう」は少なくなり，「友だちに教えてもらう」や「そのままにしておく」は多くなる。

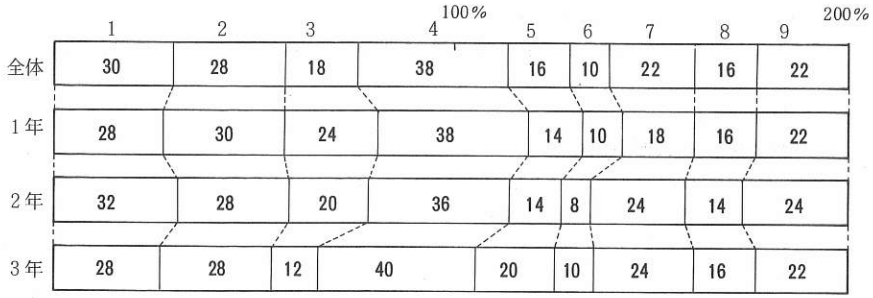
「友だちに教えてもらう」が多くなっていくことは，生徒同士の信頼関係にもつながっていくものと思う。しかし，友だちに教えてもらうということだけで，わからなかったことをすべて十分に解決しうると考えているわけでは決してないであろう。

そうだとすれば，なぜ，もっと教師に質問したり，相談したりすることができないのだろうか。教師の方でも，生徒がもっとそうしやすいような雰囲気づくりや体制づくりをなお一層考慮していく必要があるのではないだろうか。

どんな指導を受けたとき，意欲的に学習に取り組めたか

質問　あなたは，先生がたからどんな指導を受けたとき，勉強する気になりましたか。二つまで選んでください。

1. あなたには，やれる力があると言われたとき
2. わたしの努力を認めてもらえたとき
3. ほめられたとき
4. 勉強のしかたを教えていただいたとき
5. 勉強のわからないところを個人的に教えていただいたとき
6. なぜ，勉強するのかを教えていただいたとき
7. 将来のことや人としての生き方などを教えていただいたとき
8. はげましていただいたとき
9. そのような気になったときはない



生徒は，教師からどんな指導を受けたとき，勉強する気になっただろうか。「勉強のしかたを教えていただいたとき」が最も多い。そして，ほとんどの生徒が教師の指導で勉強する気になった経験を持っていることがうかがわれる。また，教師が，勉強のしかたを教えることのほかに，認めてやることも，ほめてやることも，はげましてやることも，みな，生徒に学習の意欲を起こさせるための大切な方法であることがわかる。教師のそうした指導によって起こった生徒の意欲を大切にしながら，それを持続させ，強めていきたいものである。

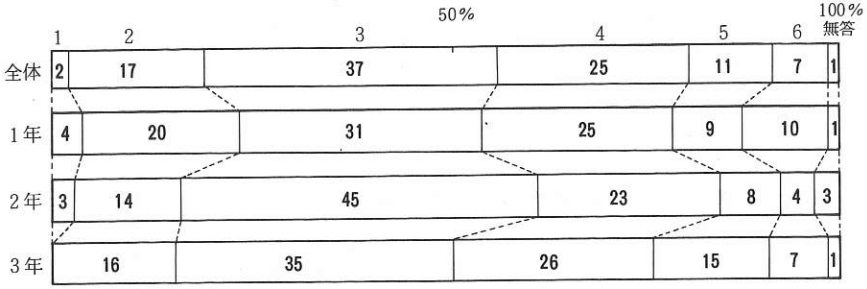
教　師　側

【学級担任】

学業指導の時間をどのくらい計画しているか

質問　あなたは，学級指導の中で，学業指導の時間を年間どのくらい計画しておりますか。一つ選んでください。

1. 1～2時間　　2. 3～4時間　　3. 5～6時間
4. 7～9時間　　5. 10時間以上　　6. 計画していない



学級担任は，学級指導の中で，学業指導の時間を年間どのくらい計画しているだろうか。5時間以上が全体として73%を占め，大方の学級担任が学業指導を重視していることがわかる。一方，「1～2時間」と「3～4時間」とが合せて19%，「計画していない」が7%である。

年間に1～2時間では，時間として不十分ではないだろうか。また，計画していないとこたえたところでは，どのように準備をし指導を行っているのだろうか。

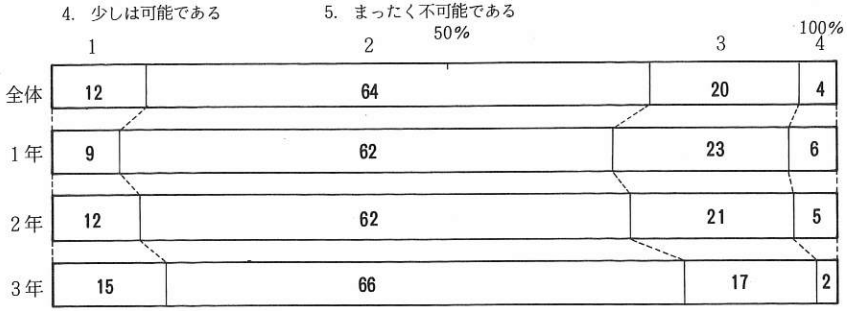
こうしてみると，学級指導の中で行う学業指導の時間の計画の幅がかなり大きいことがわかる。

【学級担任】

計画はどのくらい実施可能か

質問　前の質問で1～5のいずれかを選んだ人だけこたえてください。あなたはその計画をどのくらい実施可能だと考えていますか。一つ選んでください。

1. 計画どおり可能である　　2. ほぼ計画どおり可能である　　3. 計画の半分くらい可能である
4. 少しは可能である　　5. まったく不可能である



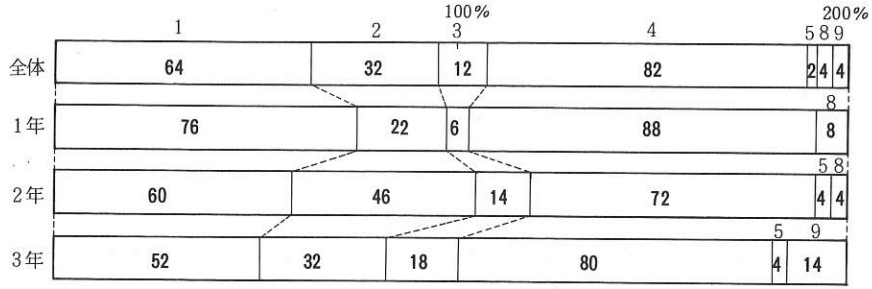
学級担任は，計画をどのくらい実施することが可能だと考えているだろうか。「計画どおり可能」と「ほぼ計画どおり可能」は，全体として合せて76%である。一方，「計画の半分くらい可能」と「少しは可能」は，合せて24%である。また，1学年及び2学年の学級担任は，3学年の学級担任と比べて，計画どおり実施できないと考える教師が多いことがわかる。

【学級担任】

実施できなかった分は，どのようなところに使われたか

質問　前の質問で3～5のいずれかを選んだ人だけこたえてください。これまで実施できなかったところは，主にどのようなことにその時間が使われましたか。二つまで選んでください。

1. 学校行事や学年行事　　2. 学級会活動　　3. 生徒会活動
4. 学業指導以外の学級指導　　5. 各教科の指導　　6. 道　徳
7. クラブ活動　　8. 部活動　　9. 職員会議など



実施できなかった学業指導の時間は，どのようなことに使われたのだろうか。その大方は，「学業指導以外の学級指導」「学校行事や学年行事」及び「学級会活動」に使われていることがわかる。

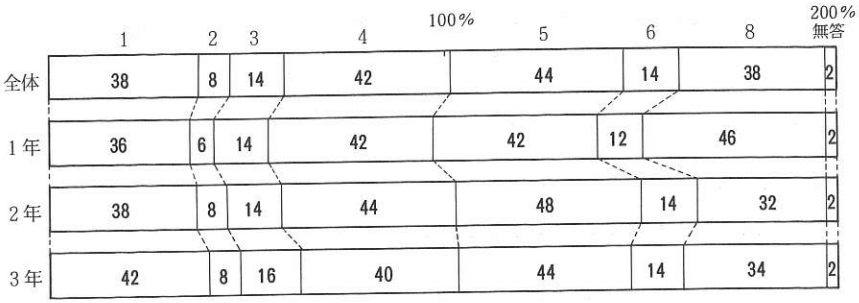
また，他の学年に比べて，1学年の学級担任は学級指導及び学校・学年行事が，2学年は学級会活動が，3学年は職員会議など（学年会議などと考えられる）が多い。できるだけ，計画どおり行っていきたいものである。

【学級担任】

学業指導の内容は何か

質問　あなたは，学級指導の中で，学業指導に関して特にどんなことを重視して指導しておりますか。二つまで選でください。

1. 学習意欲の向上　　2. 学習が遅れている生徒への指導　　3. 学習の意義や目的
4. 家庭学習の計画とその達成への努力　　5. 学習意欲を高めるための学級内のふんいきづくり
6. 学習の方法など当面している学習上の悩みの相談　　7. 学校図書館の利用のしかた
8. 授業における基本的行動や学習態度の形成　　9. 特にない



学級担任が，学級指導の中での学業指導において，特にどんなことを重視して指導しているだろうか。「学習意欲を高めるための学級内のふんいきづくり」や「家庭学習の計画とその達成への努力」などを多くあげている。他の学年に比べて，1学年の学級担任は，とりわけ，「授業における基本的行動や学習態度の形成」に，2学年は「学習意欲を高めるための学級内のふんいきづくり」に力を注いでいることがうかがわれる。

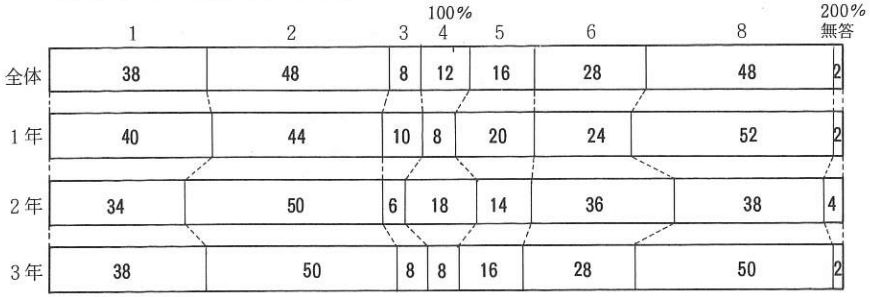
各学年とも，「家庭学習の計画とその達成への努力」についての指導が重視されているが，一方，家庭学習のしかたについての指導を望んでいる生徒がかなり多いという実態（25ページ参照）があるので，「家庭学習の計画とその達成への努力」についての指導においては，なお一層の工夫が大切となってくるのではないだろうか。また，「学習の方法など当面している学習上の悩みの相談」は，その手だてが学級指導以外での個別指導などにゆだねられていることもあってか少ないが，勉強のしかたについての指導を望んでいる生徒がかなり多いという実態（25ページ参照）もあるので，学級指導の中においてももっと指導を強めていきたいものである。

【学級担任】

学級担任から教科担任への要望は何か

質問　あなたは，学級担任として，学業指導に関して教科担任に特にどんなことを望みますか。二つまで選んでください。

1. 学習意欲の向上　2. 学習が遅れている生徒への指導　3. 学習の意義や目的についての指導
4. 家庭学習の計画とその達成への努力についての指導　5. 学習意欲を高めるための学級内のふんいきづくり
6. 学習の方法など当面している学習上の悩みの相談　7. 学校図書館の利用のしかた
8. 授業における基本的行動や学習態度の形成　9. 特にない

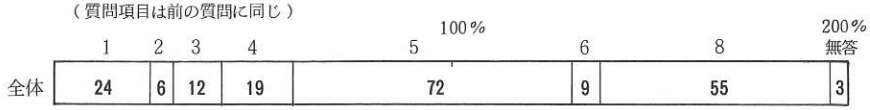


【教科担任】

教科担任から学級担任への要望は何か

質問　あなたは，教科担任として，学業指導に関して学級担任に特にどんなことを望みますか。二つまで選んでください。

（質問項目は前の質問に同じ）



学業指導に関して，学級担任が教科担任に望んでいることはなんだろうか。最も多いのは「学習が遅れている生徒への指導」と「授業における基本的行動や学習態度の形成」で，ともに全体として48%を占める。また，2学年の学級担任は，他の学年に比べて，「学習の方法など当面している学習上の悩みの相談」や「家庭学習の計画とその達成への努力」についての指導を，より多く望んでいる。これに対して，教科担任が学級担任に望んでいることはなんだろうか。最も多いのは，「学習意欲を高めるための学級内のふんいきづくり」で全体として72%を占め，ついで「授業における基本的行動や学習態度の形成」で55%を占める。

学級担任も，教科担任も，毎日の授業等の中で，生徒の学習態度や行動を望ましい姿に習慣化していくことに努めながらも，なかなかそうできないことに悩んでいることがうかがえる。このことは，学級担任と教科担任とが同じ姿勢で継続的に協力し合うことの必要性を示すものであろう。

また，学級担任は，学習の内容や方法がわからないで悩んでいる生徒の指導を教科担任へ望んでいることがわかる。一方，教科担任は，生徒の学習意欲を高めていくような授業をするために，まず学級担任がその学級内の雰囲気づくりに努めてほしいと強く望んでいることがわかる。学級担任も教科担任も，お互いの要望を十分くみとりながら，なお一層協力し合って指導にあたっていきたいものである。

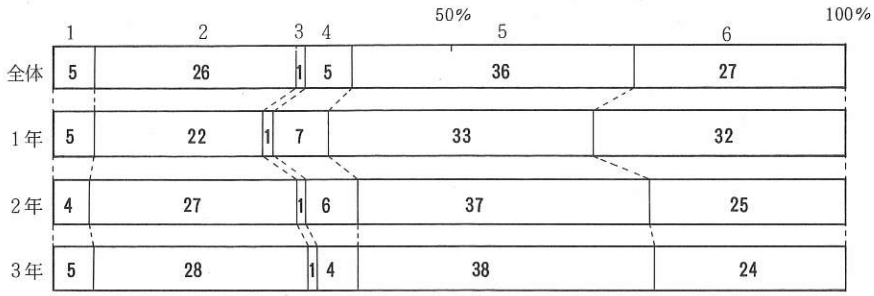
2. 生徒の学業上の悩みと教師の個別指導について

生　徒　側

勉強のことで困っていることは何か

質問　あなたが，勉強のことでいまこまっていることは，どんなことですか。一つ選んでください。

1. 勉強のめあてがわからない　2. 勉強のやりかたがわからない
3. 勉強を教えてくれる友だちがいない　4. 勉強する時間がとれない
5. 勉強をやろうとする気持ちが出てこない　6. 勉強以外のことで気がちってしまう



生徒が勉強のことでいま，一番困っていることは何だろうか。最も多かったのは，「勉強をやろうとする気持ちが出てこない」ということで全体として36%を占める。これは，学習内容や方法に対する興味や関心，意欲にかかわってくることである。

また，「勉強のやりかたがわからない」という生徒が26%いる。授業の中で，あるいは学級指導の時間の中で，教科の学習方法についてなお一層，指導や助言の努力をしていくことが望まれよう。こうした生徒が，学年が進むにつれて多くなってくるのは，学習内容のむずかしさなども加わって，生徒の学力差が大きくなってくるからなのだろうか。

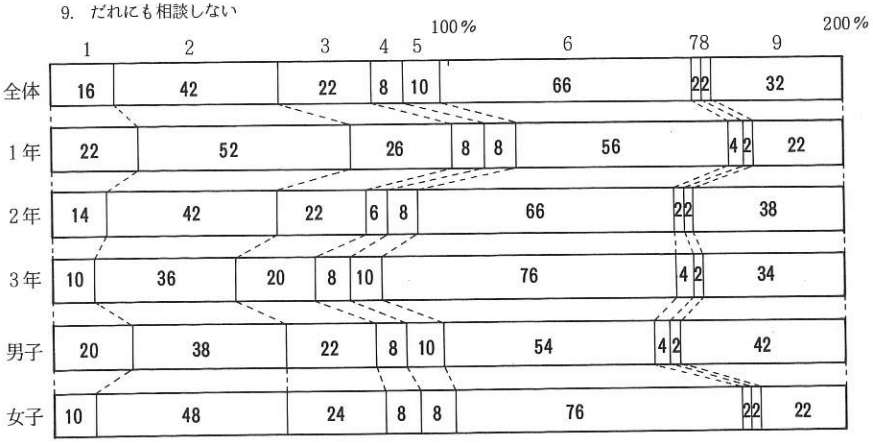
さらに，「勉強以外のことで気がちってしまう」という生徒も27%いるが，中でも1年生の生徒の場合は32%を占めていることが目立つ。

こうした生徒の実態をみると，生徒はなぜ学習意欲がわかないのか，勉強以外のどんなことに興味や関心があるのか，なぜ集中できないのかなど，生徒理解にもとづいたきめ細かい指導が大切になってくるといえよう。

それをだれに相談するのか

質問　あなたは，勉強のことで不安や悩みがあるとき，だれに相談することが多いですか。二つまで選んでください。

1. 父　2. 母　3. きょうだい　4. 学級担任の先生　5. 教科担任やその他の先生
6. 友だちや先輩　7. 塾の先生や家庭教師　8. 電話などで相談してくれるところ
9. だれにも相談しない



生徒が，勉強のことで不安や悩みがあるとき，だれに相談するのだろうか。全体として最も多いのは「友だちや先輩」であるとしている。このことは，学年が進むにつれて増加しており，また，男子より女子の方にこの傾向が強い。

次に多いのは，「母」に相談するという生徒である。これは，学年が進むにつれて少なくなっているが，どの学年でも第2番目となっている。

「父」，「母」，「きょうだい」など家族に相談するという生徒は，1年生が特に多い。学年が進むにつれて，次第に，家族よりも「友だちや先輩」へ相談するのが多くなってくる。ここに，親から自立しようとする生徒の姿がうかがえる。

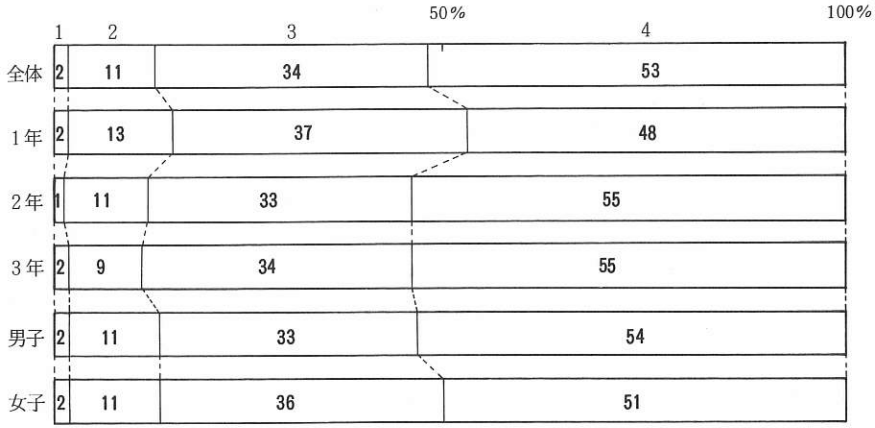
教師に相談するという生徒の割合は多くはないが，各学年そして男女ともに14%から18%を占めている。

ところで，この調査の結果で気にかかることは，「だれにも相談しない」とこたえている生徒が全体として32%いることである。これは，教師として見すごすことができない数なのではないだろうか。特にこの傾向が，男子や2年生に多いのは，どうしてだろうか。生徒にとって，身近な存在である親や兄弟，教師，友人や先輩などに何ら相談することもなく，毎日を過ごしているとすれば，教師として何らかの手立てを講じていく必要があるのではないだろうか。

教師とどのくらい相談しているか

質問　あなたは，勉強のことで不安や悩みがあるとき，個人的に学級担任や教科担任の先生がたに相談することがありますか。一つ選んでください。

1. あ る　2. ときどきある　3. あまりない　4. な い



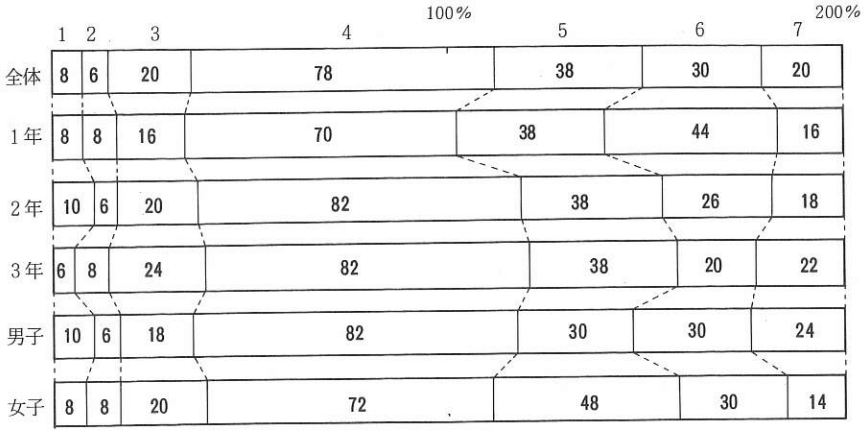
勉強のことで不安や悩みがあるとき，生徒は個人的に教師にどのくらい相談しているのだろうか。各学年そして男女ともに，ほとんどの生徒が，「あまり相談しない」「相談しない」とこたえている。

勉強のことだけでなく，不安や悩みがあるときに，生徒が教師に気軽に相談することができないのはなぜだろうか。

教師と相談しないのはなぜか

質問　前の質問で3か4を選んだ人だけこたえてください。それはどうしてですか。二つまで選んでください。

1. 先生のところへ行く時間がないから
2. 先生がいそがしそうで，じっくりと相談できる時間がないようだから
3. いまの私の気持ちをわかってもらえそうもないと思うから
4. なんとなく気がすすまないから　5. 友だちや先輩に相談できるから
6. 親やきょうだいに相談できるから　7. はずかしいから



教師と相談しないのはなぜか，その理由は何だろうか。ここでは，全体として78%の生徒が，「なんとなく気がすすまないから」とこたえている。これは，前に述べた勉強のことで困っていることは何かという質問で，「勉強をやろうとする気持ちが出てこない」（11ページ参照）という生徒の実態からみて，教師の姿勢だけでなく，生徒の意欲のなさ，無気力ということにもかかわることであろう。

1年生の場合には，「親やきょうだいに相談できるから」とこたえている生徒が44%いる。女子の場合には，男子に比べて，「友だちや先輩に相談できるから」とこたえている生徒が目立っている。

ここで特に留意したいことは，「先生がいそがしそうで，じっくりと相談できる時間がないようだから」という生徒や，「いまの私の気持ちをわかってもらえそうもないと思うから」という生徒がいることである。「なんとなく気がすすまない」や「はずかしいから」という生徒を加えれば，かなりの割合となる。生徒は，教師をいつもこんなふうにとらえているのだろうか。

教師が，生徒一人一人に常日ごろどのように接しているのか，もう一度見直してみることが必要ではないだろうか。教師にとって，生徒の相談をいつでもどこでも受け入れていこうとする姿勢や態度が大切となってくる。教師と生徒はどのようにすれば信頼し合うことができるのか，お互いに望ましい人間関係をつくっていくにはどうすればよいかなどについて，十分留意していくことが大事であろう。教師のより深い生徒理解がいま求められ，必要とされているのではないだろうか。

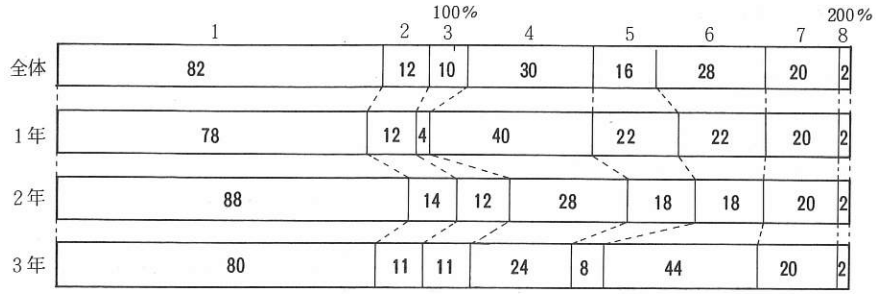
教　師　側

生徒の性格や行動などをどのような方法で把握しようとしているのか

【学級担任】

質問　あなたは，生徒一人一人の能力・適性・性格・行動などを把握するために，特にどんなことを重視していますか。二つまで選んでください。

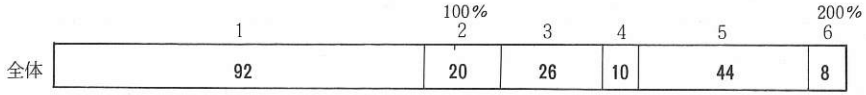
1. 日常の言動を観察する　2. 調査や記録を活用する　3. テストや検査を活用する
4. 日記や作文を活用する　5. グループノートを活用する　6. 個別相談をする
7. 教科担任などから話をきく　8. 家庭訪問をする



【教科担任】

質問　あなたは，生徒一人一人の能力・適性・性格・行動などを把握するために，特にどんなことを重視していますか。二つまで選んでください。

1. 日常の言動を観察する　2. 調査や記録を活用する　3. テストや検査を活用する
4. 個別相談をする　5. 学級担任から話をきく　6. 他の教科担任などから話をきく



学級担任や教科担任は，生徒一人一人の能力・適性・性格・行動などを把握するために，どんな方法を重視しているのだろうか。

まず，学級担任の82%，教科担任の92%が，「日常の言動を観察する」とこたえている。これは，生徒理解の方法として，最も基本的なことであり当然のことといえよう。

学級担任が，次に重視しているのは，「日記や作文を活用する」や「グループノートを活用する」である。これは，1学年の学級担任が特に重視しており，学年が進むにつれてその割合が少なくなっているが，日記や作文，グループノートを活用していくことは，3年生であっても大切な方法だといえないだろうか。

学級担任が3番目に重視していることは，「個別相談をする」ことである。特に，3学年の学級担任の場合には，他学年の担任に比べて2倍以上となっている。各学年それぞれの段階において，生徒一人一人の不安や悩み，学力差などが，複雑多岐にわたることを考えると，このことは，1年生のときから大事にしていきたいことである。

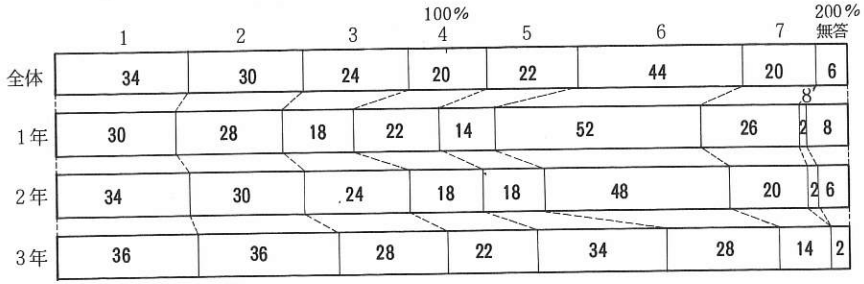
教科担任にとっては，生徒一人一人の性格・行動などを把握するために，「学級担任から話をきく」ことを44%の教科担任が選んでいる。他方，学級担任からみれば，「教科担任などから話をきく」ということは，全体の20%を占めているだけである。両者の立場の違いがあるが，教科担任と学級担任とがお互いに協力し，連絡し合ってこそ生徒理解がより一層深められるのではないだろうか。

個別指導の内容は何か

【学級担任】

質問　あなたは，学業指導に関して，主にどのような内容の個別指導を行っていますか。二つまで選んでください。

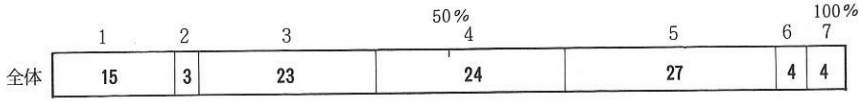
1. 家庭学習の方法を指導している
2. 家庭での時間の使い方を指導している
3. 学業についての目的意識を持たせている
4. 学習意欲を高めている
5. 不得意教科を克服する方法を指導している
6. 授業中の学習態度を指導している
7. 学級の生徒間の人間関係を指導している
8. 特に意図的な指導は行っていない



【教科担任】

質問　あなたは，学業指導に関して，主にどのような内容の個別指導を行っていますか。一つ選んでください。

1. 家庭学習の方法を指導している
2. 家庭での時間の使い方を指導している
3. 学業についての目的意識を持たせている
4. 学習意欲を高めている
5. 授業中の学習態度を指導している
6. 学級の生徒間の人間関係を指導している
7. 特に意図的な指導は行っていない



学業指導に関して，学級担任と教科担任へ，主にどんな内容の個別指導を行っているのかをたずねてみた。その結果，学級担任・教科担任ともに，全体として「授業中の学習態度を指導している」ことが最も多かった。1学年，2学年の学級担任のほぼ半数は，まずこのことを指導の重点としている。3学年担任は28%となっているが，学習態度についての指導はそれほど必要としないのか，それとも，それよりも大事な内容がもっと他にあるからだろうか。

また，学年が進むにつれて，「学業についての目的意識を持たせている」ことと，「不得意教科を克服する方法を指導している」ことが次第に多くなっている。これらは，3学年の学級担任だけでなく，1学年の学級担任もまた，1年生のときから大事な内容として個別指導することが必要であろう。不得意教科を克服する方法を指導することは，個人の学力差が割合少ない1年生のときからきめ細かく指導していけば，3年生になって，生徒が進学や進路とかかわってあわてたり，あせったりすることがより少なくなるのではないだろうか。

家庭学習にかかわる「家庭学習の方法を指導している」ことと「家庭での時間の使い方を指導している」こととは，各学年の学級担任が大事にしている内容で，全体として合せて64%を占めている。

「学級の生徒間の人間関係を指導している」ことは，1学年の学級担任が他学年に比べて多い。これは，学級づくりに力を入れていることを示すものだろうか。

教科担任の場合は，特に留意していることは，授業中の学習態度，学習意欲の向上，学業についての目的意識の三つであることがわかる。教科担任として，授業などの場面の中で，こうしたことを意識して指導しようとしているといえよう。授業中の学習態度を指導することに重点を置いていることは，学ぶことに対しての真摯な態度や人としての生き方などについても指導しているからであろう。「家庭学習の方法を指導している」を選んだのがわずか15%にすぎないことは，11ページの勉強のことで困っていることは何かという質問で，勉強のやりかたがわからないと思っている生徒が多いという実態からみると，問題として残るところである。

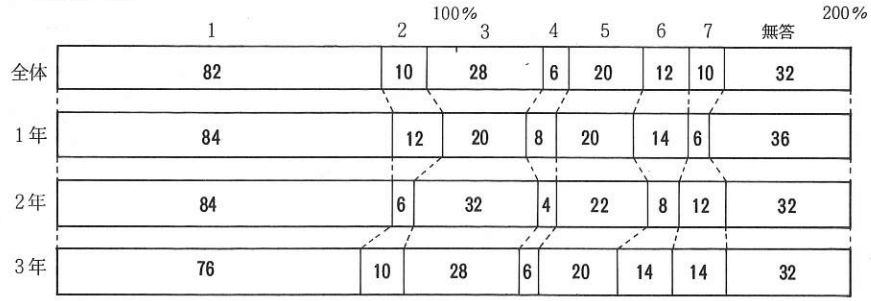
個別指導で困っていることは何か

【学級担任・教科担任】

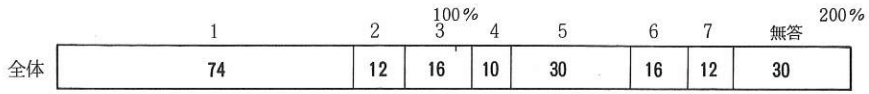
質問　あなたは，学業指導に関する個別指導を行っていく上で，特に困っていることは何ですか。二つまで選んでください。

1. 指導する時間がない
2. 指導する場所がない
3. 指導するための研修が不足している
4. 教師間の協力が十分でない
5. 学業についての生徒の気持ちがつかめない
6. 家庭の理解や協力が不足している
7. 格別困っていることはない

【学級担任】



【教科担任】



学級担任と教科担任が，学業指導に関する個別指導で特に困っていることは何だろうか。

まず，全体として学級担任の82%，教科担任の74%の教師が，「指導する時間がない」ことをあげている。個別指導をしたい，しかし時間がとれないということは，どの学年の学級担任も教科担任も切実に感じていることがうかがえる。

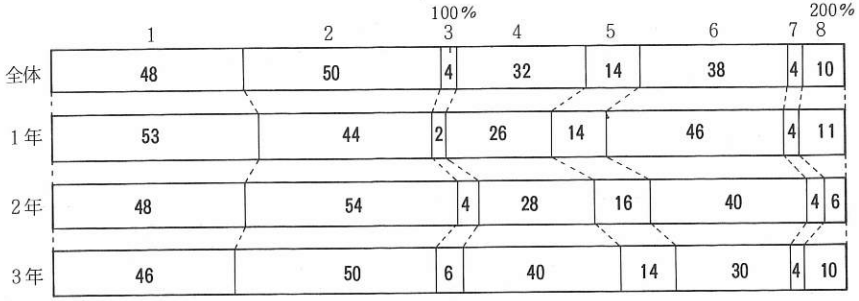
次に多いのは，学級担任の場合には，「指導するための研修が不足している」ことであり，教科担任の場合には，「学業についての生徒の気持ちがつかめない」ことである。こうしたことからみると，研修等を十分行い生徒一人一人をもっとよく理解し，個別指導をしていきたいという教師の考えが浮びあがってくる。

個別指導を今後どうするか

【学級担任】

質問　あなたは，学業指導に関する個別指導を十分に行っていく上で，今後特にどうしたいと思っていますか。二つまで選んでください。

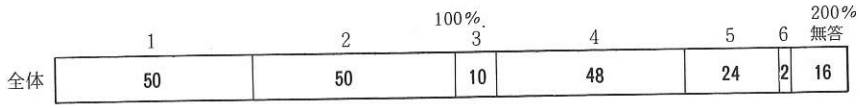
1. いわゆる「ゆとりの時間」（創意の時間）などに個別相談の時間をとる
2. 放課後などに個別相談の時間をとる
3. 教育相談室（コーナー）を学校内に設ける
4. 教育相談的な態度で生徒に接する努力をする
5. 生徒理解のための研修会を行う
6. 学級指導の時間の使い方をより充実させる
7. 家庭訪問を行う
8. 格別思っていることはない



【教科担任】

質問　あなたは，学業指導に関する個別指導を十分に行っていく上で，今後特にどうしたいと思っていますか。二つまで選んでください。

1. いわゆる「ゆとりの時間」（創意の時間）などに個別相談の時間をとる
2. 放課後などに個別相談の時間をとる
3. 教育相談室（コーナー）を学校内に設ける
4. 教育相談的な態度で生徒に接する努力をする
5. 生徒理解のための研修会を行う
6. 格別思っていることはない



この質問では，学級担任・教科担任として，個別指導を今後どのようにしたいと思っているのかをたずねてみた。その結果，学級担任・教科担任の両者が，個別相談の時間を，いわゆる「ゆとりの時間」（創意の時間）や放課後にとって，個別指導をしていきたいと思っていることがわかる。そうした時間をいかにして確保していくかが，中学校における学業指導の充実へとつながっていくといえる。前の質

問で指導する時間がないと思っている教師が多いという実態があることも考慮し，まず第一に個別相談のできる時間の確保が課題となろう。

学級担任の場合には，「学級指導の時間の使い方をより充実させる」ということを全体として38%の教師が選んでいるが，これは，学業指導の充実を図る上で望ましいことといえる。

教科担任の場合には，「教育相談的な態度で生徒に接する努力をする」ということをほぼ半数の教師が選んでいる。生徒に接するときの自らの姿勢や態度を見直していこうとしていることに注目したい。教育相談室（コーナー）などの物的条件も大切だが，それ以上に，教師自らの教育相談的な態度の必要性を痛感しているからだといえよう。

教育相談的な態度の必要性については，学級担任の場合も同じ傾向にあり，全体として32%を占めている。特に3学年の学級担任が，他学年の教師に比べてこのことを重視している。

「生徒理解のための研修会を行う」ということは，学級担任より教科担任の方の割合がやや多い。自分の教科の授業だけでなく，授業以外の場面でもより一層生徒理解を深めたいとする教科担任の強い意識があらわれているように思える。校内における生徒理解のための研修を充実させていくことが必要ではないだろうか。

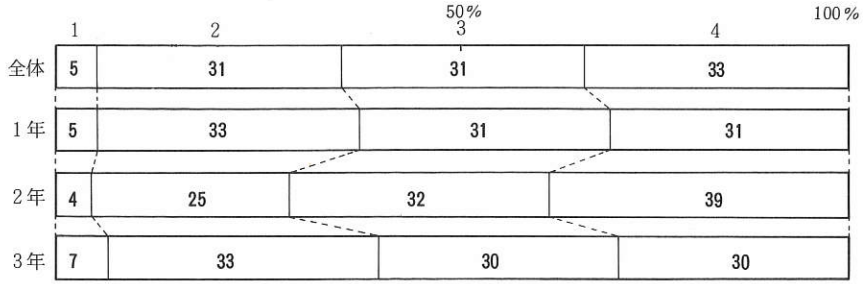
3. 生徒の家庭学習とその指導について

生　徒　側

日ごろの家庭学習の計画はどうなっているか

質問　あなたは，日ごろ，家庭での勉強の計画を立てていますか。一つ選んでください。

1. いつも立てている
2. ときどき立てている
3. あまり立てていない
4. 立てていない



生徒は，家庭での勉強の計画を立てているだろうか。「いつも立てている」生徒は，全体として5%にすぎず，「立てていない」と「あまり立てていない」を合せて64%の生徒が計画を立てていないとこたえている。

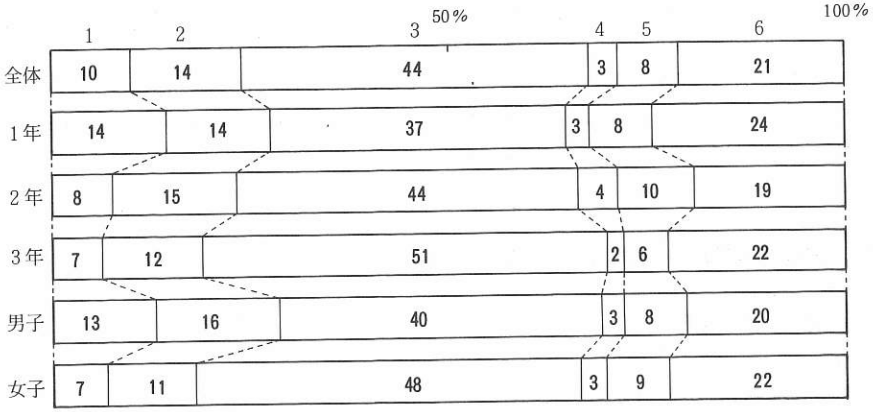
計画を立てて学習することは，学習意欲の喚起につながるばかりではなく，これからも学び続けていくためにも大切なことであり，習慣づけたいことの一つであろう。

また，計画を立てていない生徒は，特に２年生に多い。これは，２年生になって学校生活にも慣れ，いわゆる中だるみが一つの原因となっているのだろうか。

計画を立てていない理由は何か

質問　前の質問で３か４を選んだ人だけこたえてください。それはどうしてですか。一つ選んでください。

1. 計画を立てなくとも勉強できるから
2. 気が向いたときだけ勉強することにしているから
3. 計画を立てても実行できないから
4. 計画を立てるひまがないから
5. 宿題だけで終っているから
6. 計画を立てるとかえって勉強しにくいから



生徒が，家庭での勉強の計画を立てていない理由について，全体として44%の生徒は，「計画を立てても実行できないから」とこたえている。これは，学年が進むにつれて多くなり，また，男子より女子にこの傾向があらわれている。自分で計画を立てて，それにしたがって実行していこうとする強い意志が欠けているいまの中学生の姿があらわれているように思われる。

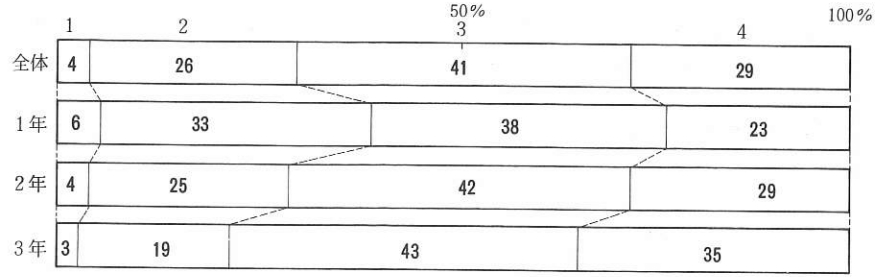
また，「計画を立てても実行できないから」に加えて，「計画を立てるとかえって勉強しにくいから」や「計画を立てなくとも勉強できるから」「気がむいたときだけ勉強するようにしているから」などを合せると，全体として計画を立てていない生徒の89%は，家庭学習の計画を立てる必要を認めていないことになろう。

計画的に学習を進めていくことは，学習意欲に大きくかかわることであり，また生徒が主体となって学業に取り組むためにきわめて大切なことである。前述（９ページ参照）によると，学級担任による学業指導の内容として，全体として42%の教師が「家庭学習の計画とその達成への努力」をあげているが，その指導をさらに積極的に進めていく必要があるものと思われる。

長期休業中の勉強を計画的に行っているか

質問　あなたは，今年の夏休み中，計画的に勉強ができましたか。一つ選んでください。

1. できた
2. だいたいできた
3. あまりできなかった
4. できなかった



生徒は，長期休業中の勉強をどのくらい計画的に行っているのだろうか。今年度の夏休みの勉強についてたずねてみると全体として70%の生徒が，「あまりできなかった」あるいは「できなかった」とこたえている。学年が進むにつれてこの傾向が強くなり，３年生では，78%の生徒が計画的に勉強できなかったようである。

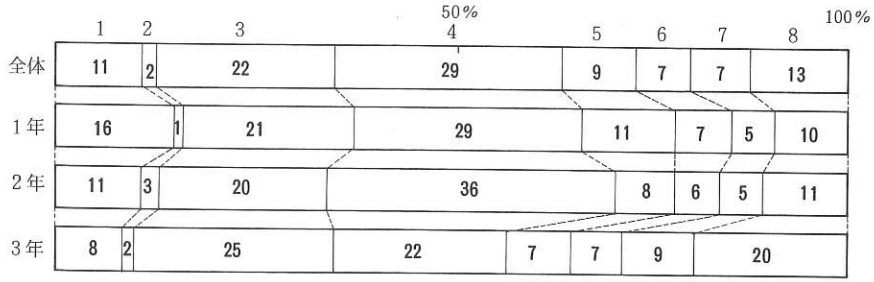
日ごろの家庭での学習状況が，長期休業中にもそのまま反映されているように思われるが，高校などの受験を控えた３年生でさえ，計画的にできなかったとしていることは，どこにその原因を求めたらよいのであろうか。

長期休業中の場合には，生徒はとかく安易な生活に陥りやすいものである。それだけに，生徒の学習計画については，事前に指導の徹底を図っていく必要があろう。

家庭学習の重点を何においているか

質問　あなたは，日ごろ，家庭ではどんなことに重点をおいて勉強していますか。一つ選んでください。

1. 予習・復習
2. 主に予習
3. 主に復習
4. 宿　題
5. 授業でわからなかったところ
6. 好きな科目
7. きらいな科目
8. 自分で決めた学習課題



生徒は，日ごろ，家庭ではどんなことに重点をおいて勉強しているのだろうか。「宿題」とこたえた生徒が最も多く，全体として29%である。ついで「主に復習」をあげている。

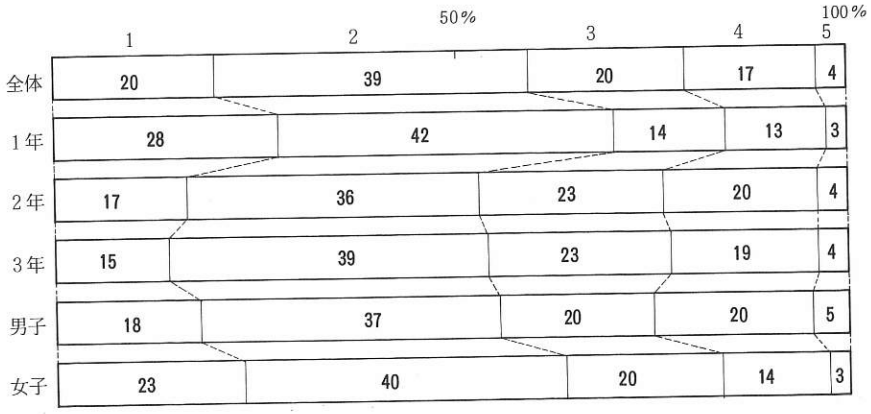
一方，「自分で決めた学習課題」とこたえた生徒は，13%と少ないものの，学年が進むにつれて多くなり，３年生では１年生の２倍となっている。自分で決めた学習課題に重点をおいて家庭学習を行っている生徒が，学年が進むにつれて多くなっていくことは，家庭学習のあり方から考えて望ましい姿であると思われる。

生徒が，目的意識をもった家庭学習を進めていくためには，１年生の時から，教師による家庭学習の進め方についての計画的な指導・助言が大切になってこよう。

宿題をどの程度やってくるか

質問　あなたは，日ごろ，宿題をやってきますか。一つ選んでください。

1. やってくる　　2. だいたいやってくる　　3. 半分ぐらいやってくる
4. あまりやってこない　　5. やってこない



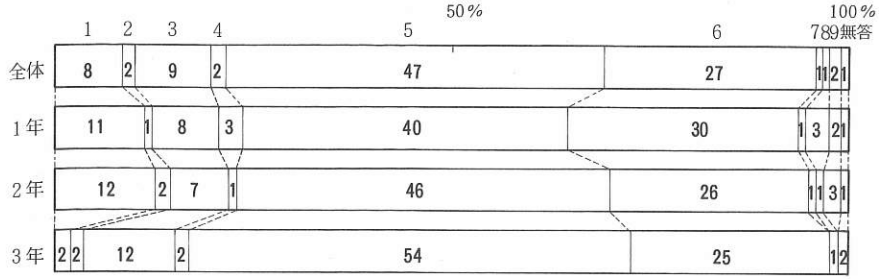
生徒は，宿題にどのように取り組んでいるのだろうか。宿題を「やってくる」と「だいたいやってくる」を合せて全体として59%の生徒は，課された宿題にまじめに取り組んでいる。１年生は２，３年生より，女子は男子より，この傾向が強くなっている。

「やってこない」と「あまりやってこない」を合せて全体として21%の生徒は，課された宿題をやってこない状況にある。それでは，この生徒は，なぜ，宿題に取り組めないのだろうか。

宿題がやれない理由は何か

質問　前の質問で４か５を選んだ人だけこたえてください。それはどうしてですか。一つ選んでください。

1. 部活動で疲れるから
2. きらいな科目だから
3. 宿題がむずかしすぎるから
4. 宿題が多すぎるから
5. やる気がおきないから
6. テレビや雑誌などに夢中になるから
7. 家庭に事情があるから
8. 塾や習いごとなどで時間がないから
9. 宿題をやっても力がつくと思われないから



宿題をやってこない21%の生徒は，どうしてやってこれないのだろうか。その理由をたずねてみると，全体として47%の生徒は，「やる気がおきないから」とこたえている。これは，学年が進むにつれて多くなっている。ついで，「テレビや雑誌などに夢中になるから」をあげている。こうしたことは，いまの中学生の意志の弱さ，無気力さというものをあらわすものだろうか。

生徒に，学習そのものの意義や，これからの時代に生きるための自ら学ぶ姿勢の大切さ，また，基本的な生活習慣形成などの指導を，今後とも重視していく必要があるのではなかろうか。また，興味・関心に訴える宿題の指導，授業との関連がより深い宿題のあり方などの工夫も大切になってくるのではないだろうか。

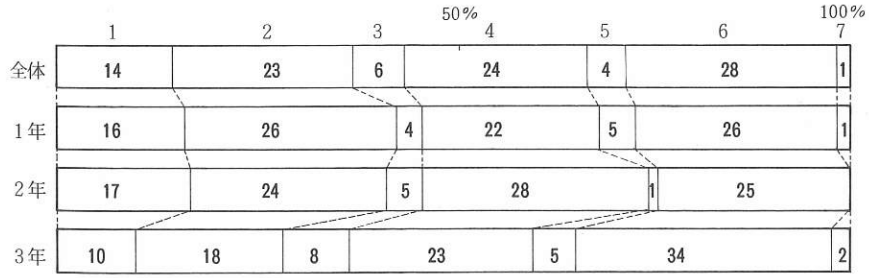
教　師　側

家庭学習の習慣づくりの内容は何か

【学級担任】

質問　あなたは，生徒の家庭学習の習慣づくりでは，特にどんなことを重視していますか。一つ選んでください。

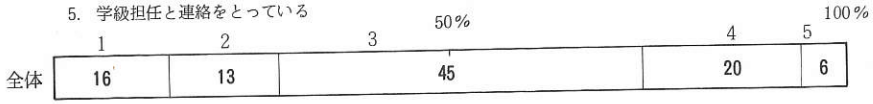
1. 家庭学習の意義や大切さについて話をしている　　2. 家庭学習の計画書を作らせ点検している
3. 宿題をなるべく出すようにしている　　4. 自主的な学習課題に取り組むように指導している
5. 家庭との連携をはかるようにしている　　6. 家庭での時間の使い方を指導している
7. 教科担任と連絡をとっている



【教科担任】

質問　あなたは，生徒の家庭学習の習慣づくりでは，特にどんなことを重視していますか。一つ選んでください。

1. 家庭学習の意義や大切さについて話をしている
2. 宿題をなるべく出すようにしている
3. 自主的な学習課題に取り組むように指導している
4. 家庭での時間の使い方を指導している
5. 学級担任と連絡をとっている



家庭学習の習慣づくりのために，学級担任や教科担任はどんなことを重視して指導しているのだろうか。学級担任は，「家庭での時間の使い方を指導している」とするこたえが最も多く全体として28%を占める。ついで「自主的な学習課題に取り組むように指導している」や「家庭学習の計画書を作らせ点検している」などを多くあげている。また，学級担任は，1年生の時には，計画書を作らせ，きめ細かく指導していることがうかがえるが，学年が進むにつれて，家庭学習の計画書の点検は少なくなっていくようすがわかる。

教科担任の45%は，「自主的な学習課題に取り組むように指導している」とこたえ，「宿題をなるべく出すようにしている」とこたえた教師は，13%にすぎない。学級担任のこたえにも同じような傾向がみられるが，このことは，生徒の学習意欲を高めたり，中学生としての学習習慣を身につけさせるために望ましいこととといえよう。

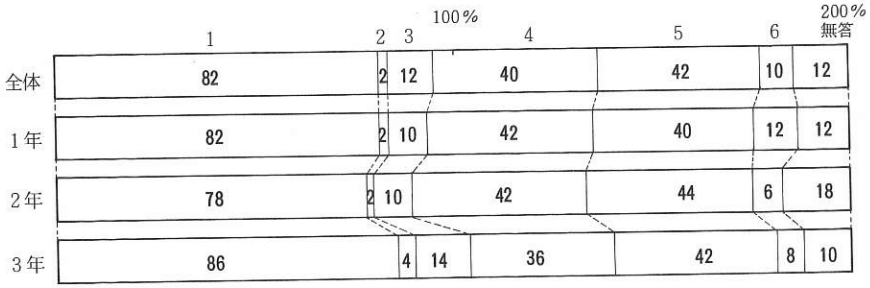
しかし，前述（19，20ページ参照）したように，生徒の家庭学習の状況をみると，家庭学習の計画を立てている生徒は少なく，計画を立てても実行できないとしている。また，宿題を中心に家庭学習をしているという生徒が多いこととも照らし合せてみると，一人一人に応じた家庭学習の習慣づくりのための指導をより工夫して進めていくことが必要なのではないだろうか。

宿題の事後指導をどうしているか

【学級担任】

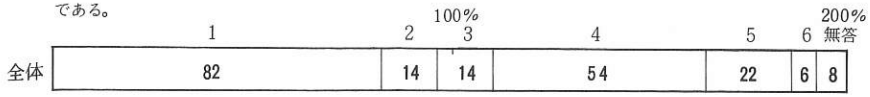
質問　あなたは，宿題を出したとき，その事後指導をどうされていることが多いですか。二つまで選んでください。

1. 点検するようにしている
2. 忘れることが多い生徒には，家庭に連絡している
3. 感想などを書いてはげましている
4. 授業の中でも宿題について取りあげ，指導している
5. してこないときは，残してさせたり，遅れても提出させている
6. したいと思っているが，時間がなくて思うようにできない



【教科担任】

質問　学級担任への質問と同じであるが，選択肢の2は，「忘れる生徒が多いときは，学級担任の協力を得ている」である。



学級担任や教科担任は，宿題の事後指導をどのようにしているだろうか。全体として82%の教師は，「点検するようにしている」とこたえている。また，「授業の中でも宿題について取りあげ，指導している」とするこたえが，学級担任で40%，教科担任で54%，また，「してこないときは，残してさせたり，遅れても提出させている」とするこたえが，学級担任の42%，教科担任の22%となっている。

このように，多くの教師が宿題の点検に努力している姿をうかがうことができるが，反面，教師のこのような指導にもかかわらず，やる気がおきず宿題をしてこない生徒がいるのも実態である。

宿題の意義の指導や宿題の内容などのほかに，自主的な学習課題へ発展できるような宿題の与え方などについても，さらに，工夫していく必要があるのではないだろうか。

「したいと思っているが，時間がなくて思うようにできない」とする教師も全体として6%から10%いることに注目したい。

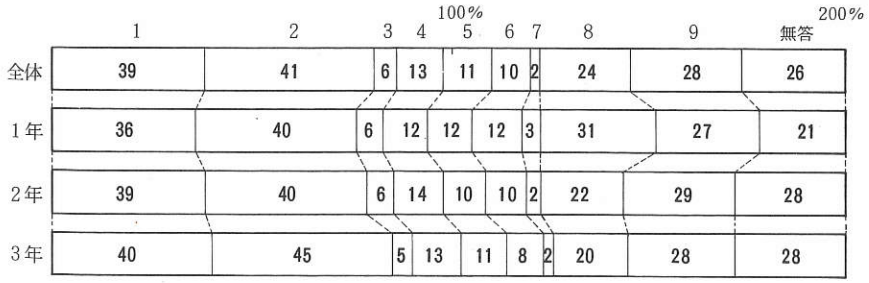
4. 生徒の教師に対する学業上の要望について

生　徒　側

学級担任への要望は何か

質問　あなたは，勉強のことについて，どんなことを学級担任の先生におねがいしたいと思いますか。二つまで選んでください。

1. 各教科に通じる勉強のしかたを教えていただきたい
2. 家庭学習のしかたを教えていただきたい
3. なぜ，勉強するのかを教えていただきたい
4. 将来のことや人としての生き方などを教えていただきたい
5. 勉強についての一人一人の悩みを聞いていただきたい
6. 勉強についてのわたしたちの希望を，教科担任の先生に話していただきたい
7. 一人一人の家庭の事情やからだのことなどを，教科担任の先生に話しておいていただきたい
8. 勉強しやすいような学級にしていただきたい
9. 特にない



学業指導が適切に行われるためには，生徒の学業上の悩みや要望をとらえ，それを指導に生かしていくことも大切になってこよう。

生徒は，勉強のことで，学級担任にどんなことを望んでいるかの質問については，「家庭学習のしかた」と「各教科に通じる勉強のしかた」を教えてもらいたいと望んでいる生徒が，合せて全体として80%いる。また，「勉強がしやすいような学級づくり」をしてもらいたいというねがいもあり，これは1年生に特に多い。学級担任へのねがいは，勉強の内容よりも，学習の方法や学習環境に関するものに多く集まっていることがわかる。

一方，学級担任が重視して行っている学業指導の内容（9ページ参照）をみると，学習の方法に関した指導は，生徒の要望に比較して少ないことがわかる。したがって，学級担任としても，学習の方法，特に各教科に通じる学習の方法についての指導を，一層充実させていくことが必要であろう。

また，「勉強についての一人一人の悩みを聞いてほしい」とする生徒も全体として11%いる。さらに，自分たちにかわって，「勉強についての希望を，教科担任に話してほしい」とねがっている生徒も全体として10%いることに注目し，学級担任と教科担任との協力を一層深めていく必要があることを感ずる。

教科担任への要望は何か

質問　あなたは，勉強のことについて，どんなことを教科担任の先生におねがいしたいと思いますか。二つまで選んでください。

1. 勉強をわかりやすく教えていただきたい
2. 一人一人わかるまで教えていただきたい
3. 勉強のしかたを教えていただきたい
4. 授業中もっときびしく教えていただきたい
5. 授業中もっとやさしい態度で教えていただきたい
6. みんなに分けへだてなく教えていただきたい
7. なぜ，その教科の勉強をするのかを教えていただきたい
8. 家庭のことやからだのことなど個人的なこともわかっていただきたい
9. 特にない

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	無答
全体	58	28	32	8	8	22	4	2	18	20
1年	58	30	28	10	10	22	4	4	18	16
2年	58	26	34	6	8	20	4	2	20	22
3年	58	28	36	6	6	22	4	2	20	18

教科担任に対してはどうであろうか。「勉強をわかりやすく教えてもらいたい」「勉強のしかたを教えてもらいたい」とする生徒は，合せて全体として90%となっている。ついで，「一人一人わかるまで教えてもらいたい」「みんなに分けへだてなく教えてもらいたい」とこたえている。教科担任へのねがいは，「勉強をわかりやすく教えてほしい」などのように，学習のしかたや指導の方法にかかわることを多くあげており，生徒は勉強がわかるようになりたいというねがいを強く持っていることをうかがうことができる。

学級担任や教科担任に対する要望はさまざまあるが，現実には，前述（13ページ参照）したように，教師に相談することが少ない実態にある。教師は，今後とも，生徒が相談できる雰囲気づくりや，生徒の要望をくみとる方法などを工夫する必要があるのではないだろうか。

Ⅳ　研究のまとめと今後の課題

このたびの研究のねらいは，中学生の学業生活と教師の学業指導の実態を調査し，中学校における学業指導の問題点と改善の視点をとらえることにあった。調査の結果やこの研究をとおしてわかったことをまとめ，さらに，今後どのようなことについて研究を深めていく必要があるかを考えてみる。

1. 研究のまとめ

(1) 生徒の学業生活の問題点

① 意欲的に学習に取り組めない生徒が多い。

② 学習の内容に興味や関心を示さない生徒が多い。

③ 学習のやり方がわからないとしている生徒が多い。

④ みんなで協力して学習しようとしている生徒が少ない。

⑤ 学習のことでわからないことや悩みがあっても，教師に質問したり相談することは少ない。だれにも相談しない生徒もいる。

⑥ 計画を立てて家庭学習をしている生徒は少なく，また，計画を立てても実行できない生徒が多い。

(2) 教師の学業指導上の問題点

① 生徒を意欲的に学習に取り組ませるにはどうすればよいか，について悩んでいる教師が多い。

② 生徒の学習態度の形成や学習しやすいような学級の雰囲気づくりについて苦慮している教師が多い。

③ 学業指導について，学級担任と教科担任の役割意識や協力が十分でないように思われる。

④ 個別指導を実施したいが，時間的な余裕がなく，思うにまかせないとしている教師が多い。

⑤ 生徒理解のための研修が十分でないように思われる。

⑥ 家庭学習の指導や宿題について見直しの必要があるように思われる。

(3) 学業指導の改善の視点

上記のような問題点をどのようにして改善していったらよいのであろうか。教師側に焦点をあてて，改善の視点を考えてみた。

① 学習意欲を高めることについて

(ア) 学習の意義や目的についての指導を強めていく。

生徒は高等学校入学者選抜学力検査に合格することを当面の目的としている。もちろん，教師はこのことを大切にして指導にあたっていかなければならないが，そのほかにも，人はみなどんな人間でもどんな職業をもつにしても，一生学び続けていくものであることを，学校教育のあらゆる場面をとおして指導していくことが大切であろう。その際，教師は自らの体験や卒業した生徒の事例などを紹介するなどして，生徒が，自分の将来にできるだけ見通しがもてるように配慮していきたいものである。

(イ) 学級内で生徒が学習しようとする雰囲気を高めていく。

生徒の学習意欲は学級の雰囲気に大きく左右されている。互いに協力し，助け合って学習しようとする生徒が少ないようにみえる。日ごろ見られる学習上の問題点について，学級指導の時間に定期的に話し合わせる時間を設定することのほかに，朝学習の時間などを活用して，生徒同士が教え合ったり聞き合ったりする場面をできるだけ多く設けてやりたいものである。このような生徒同士の助け合い学習などは，生徒同士の人間関係の改善にも役立っていくものと思われる。

(ウ) 生徒をほめたり認めたりしていく。

教師から認めてもらったり，励ましてもらったときに勉強する気になったことがあるとしている生徒が実に多い。授業中などの励ましや，日記や作文，答案用紙などに記された教師の心温まる添え書きなどは，生徒をずいぶん勇気づけることになるものである。

② 学級担任と教科担任の学業指導について

(ア) 学級担任と教科担任が相互に要望していることとして，学級担任へは学級のまとまりに関する指導のこと，教科担任へは学習の方法に関する指導のことが多く出されている。

学級担任は，学級の生徒の学業全般について常に総合的に把握し，指導していく立場にある。そのためには，生徒一人一人の学業の実態や悩みなどについて資料をまとめたり，教科担任や父母から広く情報や意見を収集し，指導にあたっていくことは当然のことであろうが，とりわけ，学級全体として，どうすれば意欲的に学習に取り組ませることができるかについて，教室環境の整備のことなどもふくめて，今後とも一層の工夫が望まれよう。

一方，教科担任は，一人一人の生徒の学力差などを押さえ，きめ細くわかりやすい授業に心がけるとともに，学習のしかたについて，くり返し指導し，家庭学習などの点検などをとおして，学習の方法が身につくように努めることが大切になってこよう。また，学級担任と連絡をとりながら，個別指導の機会をもっと多くとっていく必要があるように思われる。

(イ) 学級担任と教科担任の連携を密にしていく。

勉強のことについて学級担任をとおして教科担任へ伝えてほしいことがあるとしている生徒もいる。また，教科担任からも学級担任をとおした生徒への要望もあるだろう。いずれにしても両者の緊密な連携が必要になってくる。生徒をいろいろな角度から観察し，教師が同じ態度で指導にあたっていくためにも，学年間はもちろん，関係する職員で随時あるいは定期的に話し合いをもつことが大切になってこよう。

③ 個別指導の充実について

(ア) 面接相談を重視していく。

生徒は勉強のことで一人一人がさまざまな不安や悩みをもっている。教師は，それが何んであるかをまず知る必要があろう。調査等による生徒についての資料も大切にしていかなければならないが，生徒と教師が対面して行われる面接相談は，より有効な方法としてもっと生かされていってもいいのではなかろうか。面接相談を大切にすることは生徒理解に役立つだけでなく，教師と生徒との信頼関係を一層強めていくことにもつながっていくだろう。

(イ) 一人一人の生徒を理解しようとする態度で生徒に接していく。

生徒は勉強のことで教師に相談することは少ない。これは，生徒自身に意欲が足りないとか，生徒の無気力さなどともかかわってくるものであろうが，教師の生徒に接する日ごろの態度や姿勢ともかかわっているようにも思われる。教師はこのことについて改めて見直してみる必要はないのであろうか。また，生徒側からの相談を待つほかに，教師の方からも積極的に相談をもちかけていくことも大切になってこよう。

(ウ) いわゆる「ゆとりの時間」などを活用していく。

個別指導をしたいが時間がないとしている教師が実に多い。確かに，いまの中学校教育において，十分な時間をとって個別指導を行っていくことは容易なことではないだろう。しかし，中学生ともなるといろいろな面で個人差が目立つようになり，個別指導がますます必要になってくる。放課後やいわゆる「ゆとりの時間」などを活用して，できるだけ多くの生徒と個別に接する機会をもちたいものである。また，放課後などに行われる個別指導は，学校全体あるいは学年全体として，一斉に定期的に実施できるように計画されれば，時間の確保だけでなく，さらに実施しやすいものになっていくだろう。

④ 生徒理解のための研修の充実について

無気力で学級内で孤立している生徒，努力しても成績が向上せずあきらめている生徒，教師との人間関係がうまくいかず一人悩んでいる生徒，このような生徒をどのように指導したらよいのか，教師自身もまた悩んでいる。とりあえず，教師は校内においてこれまでの体験や指導事例などについて話し合い，学び合う機会をもつことも必要であろうが，何にもまして，教師自身の日ごろの実践の積み重ねによる積極的な自己研修が，より大切にされなければならないように思われる。

⑤ 家庭学習の指導について

生徒は家庭では計画的に学習することは少ない。計画しても実行できない生徒が多い。計画の事前指導や宿題などの点検も必要になってくるだろう。宿題を授業で取りあげて指導することや，宿題の量や内容についても工夫していかなければならないことは当然のことであろうが，宿題そのものの意義についても改めて考えてみたいものである。特に教科担任は，生徒自身が自ら課題を設定して学習することの重要性について指摘している。このことから，教師は宿題もふくめて生徒の家庭学習の指導について，もう一度見直していく必要があるのではないだろうか。

2 今後の課題

このたびの研究をとおして，中学校における学業指導の問題点や改善の視点をいくつかとらえることができた。そこで，今後学校で学業指導を行うにあたり，これらのことを具体的にどう進めていけばよいのか，その方策等をとらえるために，次のようなことについて研究を深めていきたい。

(1) 改善の視点からみた学業指導の実態を調査し，学業指導の具体的な改善の方策をとらえる。

(2) 学業指導を効果的に行うために，年間指導計画を作成する必要がある。

(3) 学業指導の授業研究をとおして，授業の進め方について検証していく。

(4) 学業指導の指導事例を収集し，事例研究をとおして，学業指導の進め方について検討していく。

昭和61年３月22日　印刷
昭和61年３月24日　発行

発行所　山 形 県 教 育 セ ン タ ー
〒994　天童市大字山元字犬倉津 2515
℡ 0236(54)2155～9

印刷所　㈱大風印刷　天 童 営 業 所
〒994　天童市久野本４－16－２
℡ 0236(54)5715